

2008年度目標に対する2005年度の実績は？

JR東日本では、2008年度を目標年度とする「環境目標」を掲げています。単年度ごとに定量的・定性的に実績を把握し、課題のある項目については、その原因を探ることで次年度の改善に活かしています。

環境保全活動の分類	主な活動内容	2008年度目標	
		基準値(1990年度)	
環境マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社、支社エコロジー推進委員会による環境マネジメント ● 秋田総合車両センターでのISO14001認証取得 ● JR東日本エコ活動の展開の開始 など 		
地球温暖化防止への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネルギー車両の導入 ● インターモーダル(パーク&ライド、レール&レンタカーなど)の推進 ● 電力供給におけるCO₂の削減 など 	事業活動に伴うCO ₂ 総排出量	276万t-CO ₂
		自営火力発電所単位発電量あたりCO ₂ 排出量	726g-CO ₂ /kWh
		省エネルギー車両比率	—
		単位輸送量あたり列車運転用消費エネルギー	20.6MJ/車キロ
		特定フロン使用大型冷凍機台数	82台
資源循環への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅・列車ゴミの削減、リサイクル(分別回収、リサイクルセンターの整備など) ● 切符のリサイクル ● 総合車両センター、工事廃棄物のリサイクル ● 駅で回収した新聞を再生したリサイクルコピー用紙の使用 など 	駅・列車ゴミのリサイクル率	—
		総合車両センター(車両工場)廃棄物のリサイクル率	—
		設備工事廃棄物のリサイクル率	—
		一般廃棄物のリサイクル率	—
		事務用紙の再生紙利用率	—
化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 川崎火力発電所からの環境汚染物質削減 ● PCB廃棄物の適正管理 など 	自営火力発電所NO _x 排出量	994t
沿線での環境活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 新幹線・在来線の騒音対策(防音壁、ロングレール化など) ● トンネル内湧出水の活用 など 	東北・上越新幹線騒音対策75dB以下(騒音対策対象地域について) ^{**1}	—
環境コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 車内広告や駅頭での環境情報の発信 ● 鉄道沿線からの森づくり ● 安達太良ふるさとの森づくり ● 社会環境報告書の発行、環境広告 など 	毎年具体的な環境保護活動	—
研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッド鉄道車両「NETレイン」の開発 ● 騒音低減技術開発 など 		

*表内 はグループの目標 対象4年間平均値…2005年度～2008年度の平均値

目標値	2004年度実績 ※()内は実数	2005年度実績 ※()内は実数	進捗	参照ページ
				38~39、42 ページ
22%削減 (215万t-CO ₂)	13%削減 (239万t-CO ₂)	7%削減 (258万t-CO ₂)	—※2	44~47、51 ページ
40%削減 (436g-CO ₂ /kWh)	30%削減 (510g-CO ₂ /kWh)	26%削減 (534g-CO ₂ /kWh)	—※2	
82%	76%	81%	 	
19%削減 (16.7MJ/車キロ)	13%削減 (17.9MJ/車キロ)	15%削減 (17.6MJ/車キロ)	 	48~50 ページ
100%削減 (0台)	84%削減 (13台)	88%削減 (10台)	 	
45%	43%	47%	 達成 	
85% 対象4年間平均値	82%	90%	 	51ページ
92% 対象4年間平均値	91%	89%	 	
43%	38%	42%	 	
100%	86%	92%	 	52~53 ページ
63%削減 (368t)	58%削減 (417t)	54%削減 (462t)	—※2	
100% (2009年度達成目標)	(住宅立地地域は) 完了	(住宅立地地域は) 完了	—	54~55 ページ
—	17カ所 2.5万本植樹 3,200人参加	18カ所 3.1万本植樹 3,600人参加		
				43ページ



エコロジー推進委員会副委員長
代表取締役副社長 谷 哲二郎

2005年度は、改定した2008年度達成目標へ向けた取り組みの初年度でした。地球温暖化防止の取り組みについては、省エネルギー車両の導入をさらに進めたことなどにより、列車運転用エネルギーを順調に削減できました。しかし、新潟県中越地震で自営水力発電所が被災し、2005年度は通年にわたり約半分の運転率となり、自営火力発電所でそれを補ったことから「事業活動に伴うCO₂総排出量」「自営火力発電所単位発電量あたりのCO₂排出量」「自営火力発電所NOx排出量」の3つが大きく増加する結果となりました。なお、被災した水力発電所については、復旧工事を進めてきた結果、2006年3月に完了しました。次回の報告からは地震の影響が取り除かれたものとなります。

新たに定めたグループ全体の目標に対する実績は、初年度ながら各社の取り組みの成果もあり、堅調なものとなりました。グループ各社の事業形態にあわせた環境保全活動の深度化にも取り組んでいきます。

2008年度目標達成に向けた進捗度

-  **達成**  ……達成
-   ……順調
-  ……やや遅れ

※1 東北・上越新幹線騒音対策
2006年度から対象地域を拡大して実施する新幹線騒音対策の実績は来年度以降報告していきます。

※2 進捗の評価
事業活動に伴うCO₂総排出量と自営火力発電所単位発電量あたりのCO₂排出量、自営火力発電所のNOx排出量については、新潟県中越地震の影響が大きいため、評価を行いませんでした。